

環境マネジメント

環境マネジメントについて

YKK APでは環境関連法規制および協定、自主管理基準を順守するとともに、事業におけるリスクと機会を明確にし、トップマネジメントによるグローバルな環境経営の強化に取り組んでいます。

また、環境マネジメントシステムを体系的に運用するために、YKK APグループ（国内）では全社統合したISO14001を運用しています。海外拠点では各拠点でISO14001を取得、運用し、全社員一丸となって環境経営に取り組んでいます。

→ 環境報告書 2024 – グローバルな環境経営度向上

<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/global/>

YKK AP環境経営方針（2021～2024年度）

ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出 ～人と自然が共生する未来へ～

YKK APは、次世代に対してより良い社会・環境をつくるために、技術革新による新しい価値の創造、環境負荷ゼロに挑戦します。

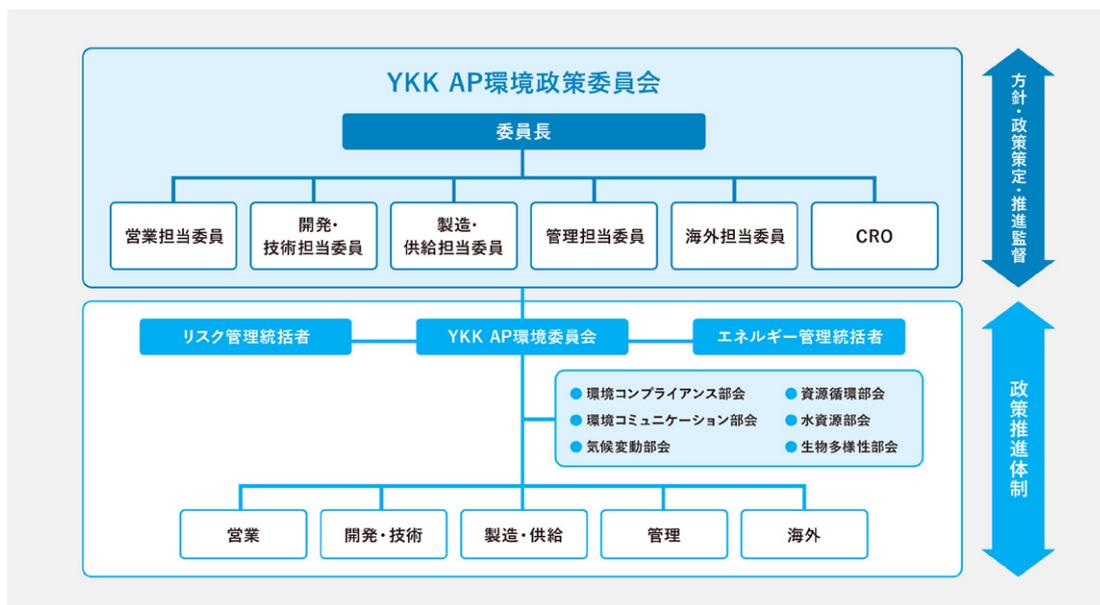
- バリューチェーン全体で環境課題解決への貢献と環境負荷低減に取り組みます。
- 環境課題として、気候変動、資源循環、水、生物多様性に取り組みます。
- 多様な人材を基盤とし、未来を見据えて新たな環境価値創出に取り組みます。

→ 環境報告書 2024 – YKK AP環境経営方針

<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/commitment/#Policy>

環境推進体制

YKK APの環境推進体制として、社長を委員長とする「YKK AP環境政策委員会」が経営視点で気候変動をはじめとする環境政策に関する経営方針・戦略を策定・承認し、進捗状況を確認しています。その環境経営方針・戦略を「YKK AP環境委員会」が営業・開発・技術・製造・供給・管理・海外部門へ展開し、相互内部環境監査で実施状況を確認しています。



→ 環境報告書 2024 – 環境推進体制

<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/governance/>

環境目標

YKK APでは、2050年のあるべき姿と環境経営方針に基づき、中期毎に環境目標を設定しています。

第6次中期環境事業計画（2021年度～2024年度）では、2050年のあるべき姿に向けて、バックカastingで2030年の目標、さらに2024年度に達成すべき中期到達目標を掲げ、そこから各年度の数値目標とアクションプランを設定し、取り組みを進めています。

【環境課題と取り組み】

【2030年の目標(2013年度基準比)】

 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<h3>気候変動</h3>	<p>温室効果ガス削減に寄与する商品や気候変動対策商品を積極的に開発・販売します。また、事業活動やバリューチェーンからの温室効果ガス排出ゼロに向けて、効率的なエネルギー使用と再生可能エネルギーの導入を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量スコープ1+2:80%削減 ●CO₂排出量スコープ3:30%削減
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<h3>資源循環</h3>	<p>資源投入量を最小化するために、材料の社内外循環利用と包装資材の削減に取り組みます。また、事業活動における廃棄物排出量の最小化に向け、分別の徹底と有価物化を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●アルミリサイクル率^{*1}:100% ●樹脂リサイクル率^{*2}:100%
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<h3>水</h3>	<p>水の持続的利用に向け、事業活動における水の循環利用や排水の環境負荷低減に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●水使用量:36%削減
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<h3>生物多様性</h3>	<p>自然と共生し、地域・社会に貢献する人材の育成と全員参加型環境活動を実践します。</p>	<p>—</p>

※1 アルミ原材料投入における市中リサイクル材の投入比率

※2 樹脂社内発生端材の社内での再利用率

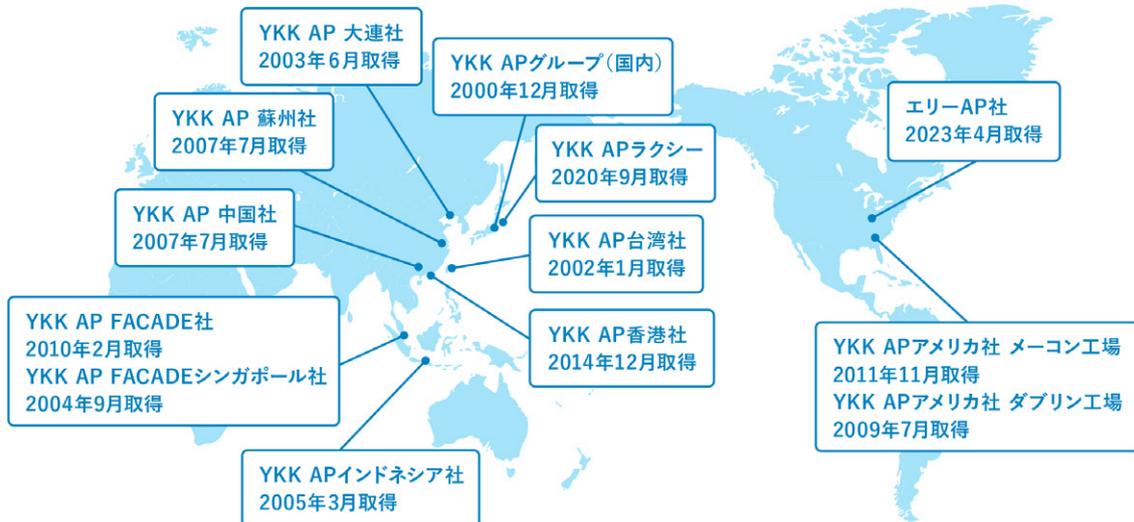
→ 環境報告書 2024 - 環境戦略 環境への取り組み経緯と2050年の目指す姿
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/manage/#sugata>

→ 環境報告書 2024 - 環境戦略 2024年度環境目標（2013年度基準）
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/manage/#2024goal>

→ 環境報告書 2024 - 目標と実績 2024年度の数値目標とアクションプラン
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/target/#plan>

環境マネジメントシステム認証

2023年3月には外部審査機関から、YKK APグループ（国内）を対象とした「ISO14001_2015年版」による定期審査を受けました。その結果、環境マネジメントシステムは、環境経営ツールとして有効に機能していると評価されました。海外拠点では、11拠点でISO14001の認証を取得しています。



※2024年4月現在。YKKグループ（国内）には株式会社YKK AP沖縄、株式会社プロスを含む

→ 環境報告書 2024 - グローバルな環境経営度向上 環境マネジメントシステムの運用、推進
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/global/#system>

ISO14001の環境マネジメント規格の認証を取得した会社数の比率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
製造	80%	80%	80%	82%
営業 他	42%	38%	38%	31%
合計	59%	57%	57%	52%

公害・環境問題発生件数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
公害・環境問題発生件数	0件	0件	0件	0件

YKK APグループ(国内+海外)実績

環境問題に関する教育を受けた従業員の割合

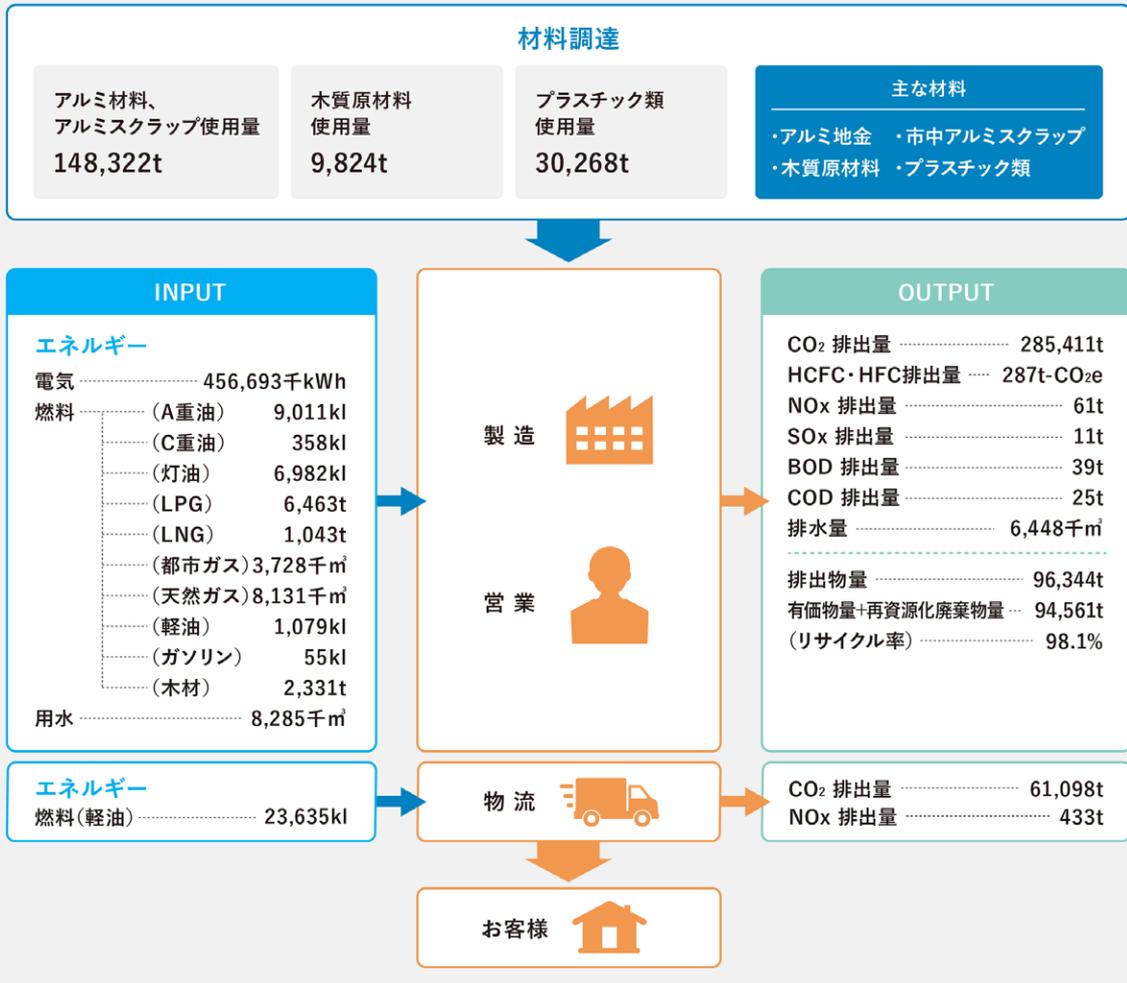
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
環境教育受講率	100%	100%	100%	100%
参加型の環境活動 (SDGsアクション) 参加率	94%	98%	99%	99%

YKK APグループ(国内)実績

→ 環境報告書 2024 - ステークホルダーとの取り組み 環境人材
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/employee/>

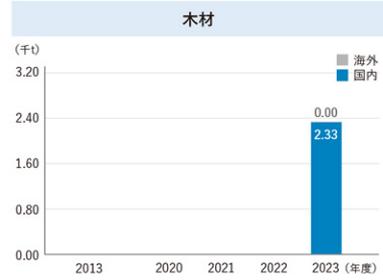
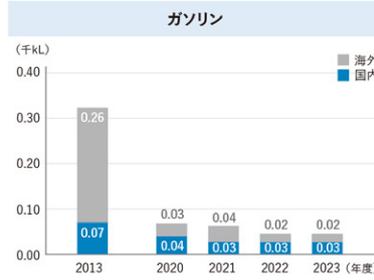
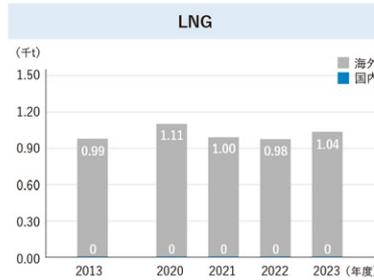
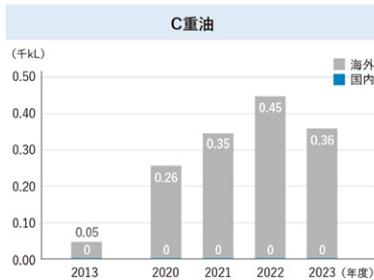
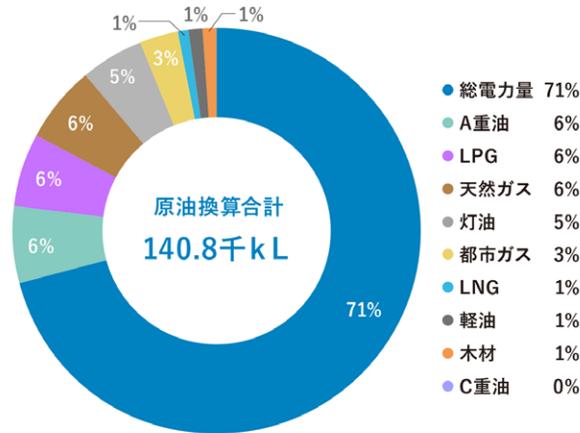
マテリアルフロー

YKK APグループ (国内+海外製造拠点)



省エネ・温暖化防止

エネルギー種類別使用量

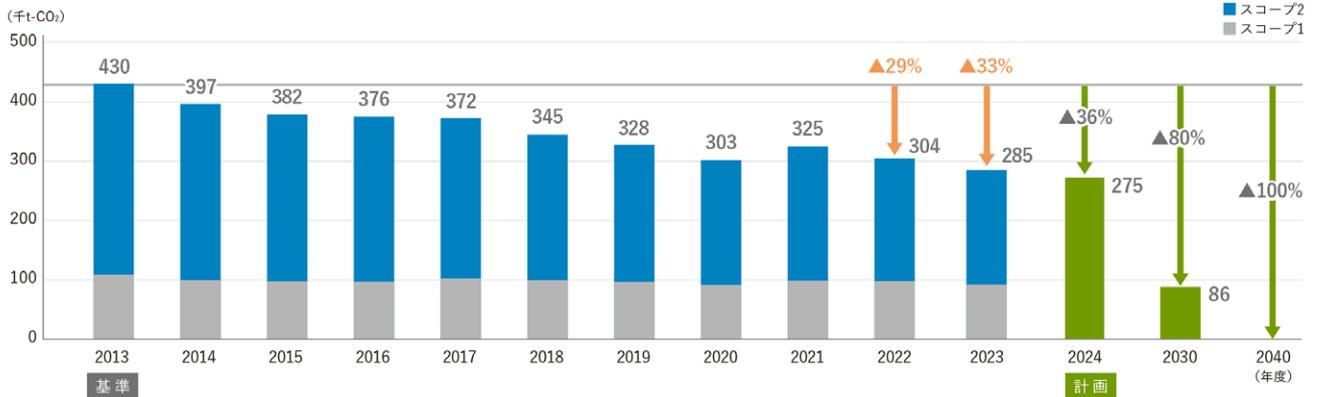


※改正省エネ法に伴い非化石燃料の追加

	2013年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総電力量	514.15GWh	432.07GWh	472.46GWh	476.62GWh	456.69GWh
うち再生可能エネルギー量	0.38GWh	7.64GWh	10.60GWh	63.45GWh	74.47GWh
A重油	12.25千kL	8.73千kL	9.45千kL	9.42千kL	9.01千kL
C重油	0.05千kL	0.26千kL	0.35千kL	0.45千kL	0.36千kL
灯油	10.95千kL	7.15千kL	7.91千kL	7.51千kL	6.98千kL
都市ガス	3,463千m ³	3,755千m ³	4,146千m ³	3,945千m ³	3,728千m ³
天然ガス	7,038千m ³	6,798千m ³	7,360千m ³	8,265千m ³	8,131千m ³
LNG	0.99千t	1.11千t	1.00千t	0.98千t	1.04千t
LPG	5.86千t	6.09千t	6.74千t	6.71千t	6.46千t
軽油	0.80千kL	1.22千kL	1.24千kL	1.30千kL	1.08千kL
ガソリン	0.33千kL	0.07千kL	0.06千kL	0.05千kL	0.05千kL
木材	-	-	-	-	2.33千t
エネルギー計(原油換算)	174.30千kL	147.38千kL	160.64千kL	161.41千kL	140.77千kL
エネルギー総消費量	998GWh	849GWh	926GWh	935GWh	890GWh

YKK APグループ(国内+海外)実績

温室効果ガス排出量（スコープ1,2）



	2013年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
スコープ1:直接排出	107千t-CO ₂	90千t-CO ₂	98千t-CO ₂	99千t-CO ₂	92千t-CO ₂
スコープ2:電気使用による排出	323千t-CO ₂	212千t-CO ₂	227千t-CO ₂	205千t-CO ₂	193千t-CO ₂
スコープ1+2	430千t-CO ₂	303千t-CO ₂	325千t-CO ₂	304千t-CO ₂	285千t-CO ₂
CO ₂ 排出量売上高原単位	107t-CO ₂ /億円	75t-CO ₂ /億円	73t-CO ₂ /億円	61t-CO ₂ /億円	53t-CO ₂ /億円

YKK APグループ(国内+海外)実績

再生可能エネルギー比率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
再生可能エネルギー比率	1.8%	2.2%	13.3%	16.3%

YKK APグループ(国内+海外)実績

※総電力量のうち、再生可能エネルギーの占める割合

温室効果ガス排出量（スコープ3）

	2013年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(温室効果ガス排出量) スコープ3	1,922千t-CO ₂	1,523千t-CO ₂	1,770千t-CO ₂	1,741千t-CO ₂	1,727千t-CO ₂

YKK APグループ(国内+海外)実績

※最新のCO₂排出係数に基づき、過去年度分も遡って修正

2023年度 サプライチェーン全体のCO₂排出内訳[※]

		国内	海外	合計
スコープ1：直接排出		70.7千t-CO ₂	21.4千t-CO ₂	92.0千t-CO ₂
スコープ2：電気使用による排出		146.2千t-CO ₂	47.3千t-CO ₂	193.4千t-CO ₂
スコープ3	購入した製品・サービス	1,067.9千t-CO ₂	350.2千t-CO ₂	1,418.1千t-CO ₂
	資本財	135.4千t-CO ₂	48.8千t-CO ₂	184.2千t-CO ₂
	エネルギー関連活動	25.9千t-CO ₂	5.0千t-CO ₂	30.9千t-CO ₂
	輸送・配送（上流）	34.7千t-CO ₂	9.2千t-CO ₂	43.9千t-CO ₂
	事業から出る廃棄物	0.5千t-CO ₂	1.1千t-CO ₂	1.5千t-CO ₂
	出張	5.1千t-CO ₂	0.3千t-CO ₂	5.3千t-CO ₂
	雇用者の通勤	13.0千t-CO ₂	0.4千t-CO ₂	13.4千t-CO ₂
	リース資産（上流）	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂
	輸送・配送（下流）	1.1千t-CO ₂	5.2千t-CO ₂	6.2千t-CO ₂
	販売した製品の加工	13.2千t-CO ₂	1.7千t-CO ₂	14.9千t-CO ₂
	販売した製品の使用	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂
	販売した製品の廃棄	6.8千t-CO ₂	2.0千t-CO ₂	8.7千t-CO ₂
	リース資産（下流）	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂
	フランチャイズ	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂
	投資	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂	0.0千t-CO ₂
スコープ3計		1,303.5千t-CO ₂	423.8千t-CO ₂	1,727.3千t-CO ₂
スコープ1+2+3計		1,520.4千t-CO ₂	492.4千t-CO ₂	2,012.8千t-CO ₂

YKK APグループ(国内+海外)実績

※「YKKグループ GHG排出量算定・報告ガイドライン」および「スコープ3算定方法」に基づき算出

[→ 環境報告書 2024 - 環境負荷情報 スコープ3算定方法](https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/data/data01.php#scope3)
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/data/data01.php#scope3>

環境配慮投資の方針と実績

YKK APでは、「商品」と「モノづくり」を通じて持続可能な社会づくりに貢献していくため、環境配慮型商品の開発、CO₂削減・リサイクル等地球環境負荷低減に関わる取り組みに対し、積極的な投資を進めていきます。同時に、費用対効果を明確にし、その実績をステークホルダーに対して説明していきます。

[→ 環境報告書 2024 - 環境管理会計 環境配慮投資の方針](https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/data/data03.php#policy)
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/data/data03.php#policy>

省資源・リサイクル

廃棄物排出・リサイクル

	2016年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
廃棄物排出量	20.5千t	15.4千t	15.9千t	15.4千t	17.4千t
廃棄物排出量売上高原単位※	4.95t/億円 (100)	3.82t/億円 (77)	3.57t/億円 (72)	3.03t/億円 (61)	3.23t/億円 (65)
最終処分量	3.0千t	1.1千t	1.2千t	1.3千t	1.8千t
有価物量+廃棄物リサイクル量	87.9千t	86.2千t	95.2千t	100.2千t	95.0千t
廃棄物リサイクル率	97%	99%	99%	99%	98%

YKK APグループ(国内+海外 製造拠点)実績

※ かつこ内は基準年2016年度の原単位を100とした数値

アルミニウムのリサイクル

アルミニウムは新地金の精製時に大量の電力を要し多くのCO₂を排出するため、リサイクル率の向上はカーボンニュートラルの実現に貢献します。

その取り組みとして、リサイクル炉の導入により市中リサイクル材の投入比率を大きく高めることで、新地金の使用比率を下げ、サプライチェーン全体のCO₂排出量を大きく削減することが可能となります。

四国製造所でのリサイクル炉導入を皮切りに他拠点での展開を進める計画で、2030年にはリサイクル率100%をめざして取り組みを加速させていきます。

また、リサイクル率の向上とあわせて、ポーキサイトから精錬される段階で再生可能エネルギーを活用した「グリーンアルミ」の調達を進めており、さらなるCO₂排出量削減を目指します。

樹脂のリサイクル

樹脂フレーム材、樹脂窓の製造工程では効率的な生産により樹脂端材、切粉の発生抑制に努めています。発生した端材、切粉については再び資源として樹脂材へ再生させ、そのリサイクル率の向上に取り組んでいます。また、樹脂端材の新規用途の開発も積極的に行っています。また、使用後の樹脂窓を回収・リサイクルするシステムの構築に向け、産官学連携で取り組みを進めています。

→ 環境報告書 2024 - 資源循環 (サーキュラーエコノミー) 樹脂投入資材の削減とリサイクル

<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/circulate/#recycling>

水資源に対する考え方

YKK APでは、生産工程における水の循環利用や再利用による取水量の削減や排水の環境負荷低減を行い「持続的な水利用の実現」に向けた取り組みを推進しています。

→ 環境報告書 2024 - 水

<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/water/>

水使用量（取水量）、排水量

	2013年度 (基準年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水使用量（取水量） ^{※1}	12,575千m ³	10,008千m ³	9,840千m ³	8,894千m ³	8,285千m ³
水使用量売上高原単位 ^{※2}	3.12千m ³ /億円 (100)	2.48千m ³ /億円 (79)	2.20千m ³ /億円 (71)	1.75千m ³ /億円 (56)	1.54千m ³ /億円 (49)
排水量 ^{※3}	11,457千m ³	8,367千m ³	8,447千m ³	6,293千m ³	5,878千m ³

※1 YKK APグループ(国内+海外 製造拠点)実績

※2 YKK APグループ(国内+海外 製造拠点)実績 かつこ内は基準年2013年度の原単位を100とした数値

※3 YKK APグループ(国内 製造拠点)実績

汚染防止

PRTR対象物質、大気汚染物質

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(PRTR対象物質)取扱量 ^{※1}	983t	1,046t	985t	1,008t
(PRTR対象物質)排出量 ^{※1}	50t	54t	52t	73t
(PRTR対象物質)移動量 ^{※1}	11t	12t	13t	20t
(大気汚染物質)SO _x ^{※2}	9t	9t	7t	11t
(大気汚染物質)NO _x ^{※2}	50t	54t	51t	61t

※1 YKK AP単体 実績

※2 YKK APグループ(国内+海外 製造拠点)実績

水中排出汚染物質

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水中排出汚染物質 総重量 [※]	33t	44t	34t	37t

YKK APグループ(国内 製造拠点)

※ COD、BOD排出量

BOD…生物学的酸素要求量(川への放流)

COD…化学的酸素要求量(海への放流)

生物多様性保全

基本的な考え方

生物資源や土地の利用、水や大気の浄化など、企業は生態系から多大な恩恵を受けており、生物多様性の損失は重大な経済危機を招く危険性があるといわれています。

YKK APの事業活動も、生物多様性の恩恵を受けて成り立っており、事業活動の中で生物多様性へプラスとなる取り組みを進めるとともに、マイナスとなる影響をできる限り小さくしていくことで、持続可能な社会づくりへ貢献していきます。多くの課題の中でも「自然との共生」を意識し、有害性の高い化学物質の使用、排出を削減し、安心・安全な商品の提供および周辺環境との調和をめざしていきます。

→ 環境報告書 2024 - 生物多様性

<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/ecology/>

TCFD 提言に基づく情報開示

YKK APは、持続的な成長を牽引するために2021年に定めたマテリアリティの一つに「環境との共生」を掲げ、脱炭素・循環型社会の促進、環境配慮商品の拡販など、環境負荷低減と気候変動の緩和と適応に貢献する活動を推進しています。

2050年のめざす姿である「事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現」に向け、ライフサイクルの全ての段階で環境価値を創出するとともに、グローバルな環境負荷低減活動を実践しています。

マテリアリティ「環境との共生」の中でも中核的な課題である「気候変動」では、2050年カーボンニュートラルに向けて、事業活動の全ての工程で温室効果ガスの削減や気候変動への適応に取り組んでいます。2019年1月にSBT認定取得、2019年5月にTCFD提言に賛同し、気候関連リスク・機会の両面において事業活動への影響を評価し、経営戦略に反映しています。

ガバナンス

YKK APは、経営方針等の重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、ならびに監査機関としての監査役会という機関制度を基本として、事業・業務執行を推進する執行役員制度を導入しています。

特に、サステナビリティ課題は社長を議長とする「ESG全体会議」によって全社の視点から方針を策定した上で、関連部門、国内外のグループ会社に展開し、部門横断的な活動を行っています。

「ESG全体会議」の中で環境分野を管轄する「環境政策委員会」は、社長を委員長としており、経営視点で気候変動を含む環境方針・戦略を策定・承認し、進捗状況を確認しています。その環境方針・戦略を「環境委員会」が国内外の製造・営業拠点へ展開し、相互内部環境監査で実施状況を確認しています。

戦略

TCFD提言に沿って、気候変動問題がAP事業へ及ぼす重大なリスクと機会を特定・評価しています。

種類		事業への財務的影響	対応
移行 リスク	評判	カーボンニュートラル等、社会的要請事項への対応遅れによる企業価値の喪失	カーボンニュートラルプロジェクトを2021年度に発足し、副社長をプロジェクトリーダーに、若手技術者の参画による6つのワーキンググループを設け、各ワーキンググループでの取り組みを進めています。2023年度には、カーボンニュートラル達成目標年度を2050年度から2040年度に前倒しし、取り組みを加速させています。
	市場	エネルギー資源枯渇によるコスト増大	中長期にわたって、年率1.3%以上のエネルギー原単位（生産当たりエネルギー使用量）の削減をめざし、高効率設備（生産設備・照明・空調）の導入を推進しています。加えて、再生可能エネルギーの活用やエアリーク削減、排熱ロス削減等を展開し、エネルギー使用量削減を推進しています。
物理的 リスク	緊急性	自然災害による被害増加、サプライチェーンの分断	災害・リスク発生時に備え、国内外の全拠点でBCPの策定を完了しています。また、BCPの迅速な実行を目的に「事業継続マネジメント（BCM）規定」の見直し・更新を行った上で、機能軸・地域拠点単位での浸透を進めています。資材の複数社購買、サプライチェーンの把握と改善、重要管理アイテムは緊急在庫の確保に加え、開発・製造・購買部門が連携して代替調達の設定を行うなど、商品開発の段階からBCPを踏まえた取り組みを行っています。
	慢性	降雨量減少による水不足での事業活動の制限	生産工程において、洗浄水や冷却水として水を使用しています。地域によっては湯水による水使用制限のリスクがあり、工業用水の受け入れ量の見直しや水の多段利用、循環利用、再生利用を実施し、水使用量削減に取り組んでいます。
機会	製品・サービス	高断熱商品の需要増加	APW樹脂窓シリーズは、世界トップクラスの断熱性能を持つ「APW 430」をはじめ、シリーズを通して高い断熱性能を実現しています。これら高断熱商品の販売拡大により、エネルギー消費の削減に加えて、室内の温熱環境を改善し快適な住環境を提供しています。
		脱炭素・資源循環商品（リサイクルアルミ等）の需要増加	アルミをリサイクルする際は使用するエネルギーが少なく済むため、ボーキサイトから新しくアルミ地金（新地金）をつくる場合に比べて、CO ₂ 排出量はわずか3%程度と大きく削減できます。市中から回収される使用済みアルミサッシ等の利用を拡大することにより、2030年度までにアルミリサイクル率100%をめざします。その実現に向け、アルミリサイクル炉の導入や不純物分離技術等の開発を進めています。

リスク管理

事業全般に関わるリスク評価・見直しを年に1回行い、「損害規模」「発生頻度」で優先順位をつけ、各委員会・部門が該当するリスクを管理しています。気候変動関連リスク（自然災害、環境規制への対応不備等）についても重要リスクとして特定し、管理プロセスとして組み込み、環境委員会・BCM委員会でグローバルに政策展開・モニタリングを行っています。

指標及び目標

カーボンニュートラル実現をめざし、SBTに認定された中長期目標を設定し、達成に向けた環境行動計画を中期事業計画に合わせて策定しています。また、2023年3月に公表した「Evolution 2030」で2030年度自社CO₂排出量80%削減（2013年度比）、2040年度100%削減と目標を前倒しました。

指標		目標
スコープ1+2 ^{※1}	自社CO ₂ 排出量の削減	2030年度80%削減（2013年度比）
スコープ3 ^{※1}	サプライチェーンCO ₂ 排出量の削減	2030年度30%削減（2013年度比）
商品使用時 ^{※2}	CO ₂ 削減貢献量の拡大	2024年度216%（2020年度比） ^{※3}

※1 YKK APグループ(国内+海外)実績

※2 YKK APグループ(国内)実績

※3 最新の2024年度計画に基づき算出

商品によるCO₂削減貢献

高断熱商品によるCO₂削減貢献量

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高断熱商品によるCO ₂ 削減貢献量	468千t-CO ₂	548千t-CO ₂	594千t-CO ₂	811千t-CO ₂

YKK APグループ(国内)実績

→ 環境報告書 2024 - 気候変動（カーボンニュートラル実現に向けて）CO₂削減貢献量
<https://www.ykkapglobal.com/ja/sustainability/environment/report/climate/#contribution>

サステナブル商品について

省エネ・省施工・防災減災・安全・安心・健康・衛生など社会の重要課題を解決し、SDGs達成に貢献する建築パーツを「サステナブル商品」と定義しています。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
サステナブル商品売上比率	38.1%	38.4%	37.8%	40.3%

YKK APグループ(国内+海外)実績 売上高ベース

樹脂窓化率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
樹脂窓化率（戸建住宅向け）	29%	31%	31%	35%

YKK APグループ(国内)実績 戸建住宅用窓販売数における樹脂窓の割合

高断熱窓化率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高断熱窓化率（戸建住宅向け）	67%	70%	75%	79%

YKK APグループ(国内)実績 戸建住宅用窓販売数における樹脂窓、アルミ樹脂複合窓の割合

新築・リフォーム比率

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
新築・リフォーム比率	住宅	新築 75%	新築 77%	新築 76%	新築 69%
		リフォーム 25%	リフォーム 23%	リフォーム 24%	リフォーム 31%
	ビル	新築 76%	新築 70%	新築 69%	新築 67%
		改装 24%	改装 30%	改装 31%	改装 33%

YKK APグループ(国内)実績 売上高ベース